

今回税の作文を書くにあたり、数年前父が私に話してくれた言葉を思い出した。私の父が仕事でカンボジアを訪れた話だ。父が世界遺産のアンコール・ワットを訪れると、小さい子どもが手作りのキーホルダーを見せながら、日本語で「こんにちは。買って。買って。お願いします。」と話しかけてきた。父は日本語が話せることに驚愕した。その子どもは日本語だけではなく、英語、フランス語、イタリア語、中国語などで観光客に話しかけていた。この子は10カ国語を話せるという。現地のガイドの方の話によると、家計を助けるために観光客を相手に商売しているという。私は、この父の話聞いて衝撃を受けた。こんな小さな子どもが働き、仕事のために語学を独学で勉強するとは、日本の子どもたちはどれほど恵まれているのだろうか。日本では中学を修了するまでは義務教育であり、税金のおかげで誰もが学校に通うことができる。こんな当たり前のことが、当たり前でない国があることに、私は改めて税の大切さを学んだ。

日本は国として政府開発援助（ODA）を行っている。例えば、道路の舗装、学校の設立、医療支援などがあげられる。こういった支援の原資は、私たち日本人が納めた税金や公債だ。なぜ他の国のために自分達の大切な税金が使われているのか、疑問に思った。しかし東日本大震災のとき、日本は世界中の国からあらゆる支援を受けた。中には、一年分の国家予算の半分もの寄付をしてくれた国もある。だから、日本が他の国のために税金を使うことは必然である。税金は日本と他の国とを繋ぐ大事な役割であるといえる。

日本は現在、カンボジアの最重要課題である地雷や不発弾の撤去を支援している。カンボジアには、地雷や不発弾が世界で一番埋まっている。そのため、地雷に巻き込まれて命を落とす被害が後を立たない。カンボジアの国民が一刻も早く安心して暮らせる日々を送るためにも、日本だけではなくもっと世界の国が協力して支援する仕組みができれば良いと私は考える。これからも日本は、世界中から受けた恩恵を忘れず他の国の支援に積極的に税金を使ってほしい。

私は将来社会に出て働くようになったらきちんと税金を納め、国民の三大義務の一つである納税の義務を果たしたい。そして、私が納めた税金が少しでも困っている国の援助に使われてほしい。私もあと三年で選挙権を持つことができる。実際に税金の使い道を決めるのは、国の代表である国会議員だ。つまり、ちゃんとした国会議員を選ぶためにも、一人一人がもっと税金に関心を持つべきだ。そう考えると、選挙に行ききちんと投票する事は私達国民の大切な役割である。